

京芸通信

KYOGEI TSUSHIN

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

VOL. 35

京都市立芸術大学 広報誌 第35号 / 令和8年2月



学長インタビュー

崇仁のキャンパスから、
100年後の「豊かさ」を耕す。

—— 小山田学長に聞く、地域と共に創る芸術の未来



KYOGEI
TERRACE

崇仁のキャンパスから、 100年後の「豊かさ」を耕す。

—— 小山田学長に聞く、地域と共に創る芸術の未来

本学のキャンパス移転を起点に、地域との共生を最重要課題と位置づけ、新しい取り組みを打ち出す小山田学長に、その哲学と、地域と共に創る芸術の役割について伺いました。

地域との共生

広報担当（以下、広報） 本学の移転を皮切りに、京都駅の東部・東南部エリアでは新たな施設もオープンし、地域の変化という点で、「にぎわい」の創出が期待されていると思いますが、学長はどのように捉えておられますか。

小山田徹学長（以下、学長） 商業施設などでは、お金を支払うことで手軽に体験を得られるという利便性があります。一方で、共有すべき時間や場所を「自分たちで作る出す」という関わり方も大切にしたいと考えています。この地域の子どもたちには、そうした創造的な体験もしてほしいのです。自分たちが参加して作った場には愛着が湧き、そうした場こそが持続していきます。経済的ににぎわいももちろん重要ですが、それと同時に、地域性や土地性と結びついた「本当の豊かさ」をどう実現していくか、バランスを考えていく必要があると感じています。

広報 経済的・商業的ににぎわいによる住環境への懸念の声を上げる地域住民の方もおられると聞きます。地域住民にとって持続可能な「豊かさ」を創り出すために、大学と芸術は何をすべきでしょうか。

学長 私たちは、100年後のまちを想像し、「本当の豊かさとは何か」「人が住みたいと思う地域の魅力とは何か」を住民の方々と真剣に考える必要があります。短期的な収益も大切ですが、それだけを優先すれば、どこにでもある開発地と同じ姿になってしまうでしょう。私たちは今、住民が主体的に関わり、愛着が湧く関係づくりを行っ



地域の子どもたちと本学が協力し合い、野菜を育てながら人々が自然と集まる場と時間を創出する「たがやし」プロジェクト。写真はキックオフイベント（土入れ・種まき）の様子。



ています。さらに、「芸術と人権」という企画を通じて、開発で見過ごされがちな「人権」や「地域」といったテーマにも取り組んでいます。

広報 芸術の力で社会を変えるための提案ということですね。

学長 はい。芸術は、経済合理性だけでは測れない価値を提示するものであり、未来の常識となる新しいビジョンを提案すべきものです。この崇仁の未来をどのように描くべきか。私たち芸術大学は、住民の皆様とともに芸術の力で次の100年につながるまちづくりの方向性を編み出していきたいと考えています。

「たがやし」プロジェクトに 込められた愛着の哲学

広報 学長に就任されてから、地域との関わりをめぐって様々なプロジェクトに取り組まれています。特に新しく始められた「たがやし」プロジェクトについてお聞かせください。

学長 当初、崇仁教育連絡会、本学の教員・学生、そしてNPO法人京都府食育協会の三者が連携し、地域の子どもたちへの食育として、自分たちで作った器や漆塗りのスプーンでカレーを食べるという発想がありました。そのような中、私の学長就任にあたり地元の役員の皆さまが表敬訪問くださった際、私から「大学でプランターを用意しますので、皆と一緒に野菜を育て、地域と大学の交流を深めませんか」と提案させていただきました。その後、従来の取組を「野菜を育てる」段階から繋げていく方がより意義のある活動になると考え、これらのアイデアを統合した「たがやし」というコンセプトが生まれました。こうして7月にキックオフイベントを開催し、12月には自分たちで育てた野菜を使ってカレーを作る計画を立てました。野菜



「たがやし」プロジェクトで育てた野菜の収穫と、収穫した野菜を使ったカレーづくりの様子。

を育てるための移動式プランターは、私が自作したものです。

広報 野菜を育てるとなると、天候不順など思うようにいかない難しさもあると思いますが。

学長 天候不順もそうですし、ほかにも思い通りにいかないこともあります。そこがまた面白いんですね。たとえ必要な量を収穫できなくても、重要なのは成果の大小ではなく、そのプロセスにおける人々の関わり合いです。

広報 学長が実施されている焚き火の活動のコンセプトには「小さな労働に関わる」という考えがありますが、「たがやし」プロジェクトでも同様でしょうか。

学長 そうですね。焚き火で火の加減を気かけたり、植物に水やりをしたり、成長を眺めたりという行為は、契約労働ではなく「自分がついついやっちゃう」感じの労働で、それが大切なんです。このような自発的な労働を誘発する対象として、植物や動物は非常に有効です。今回は野菜を育てることで、子どもたちも気にかけてくれるし、作物ができれば成果もわかりやすい。昔のまちには共同の労働がたくさんありましたが、現代社会の便利さによって、自分がやらなくても誰かがやってくれるようになり、人との関わりも希薄になりました。例えば、昔は当たり前だった高齢者による地域の子どもたちへの「お見守り」や声かけもなくなってしまった。だからこそ、野菜と一緒に育て世話をするといい、ごく自然な「小さな労働」を通じて、子どもたちと大人たちが無理なく関わりを持てる場を作りたい。日ごろ人工物に囲まれて生活している私たち大学の人間にとっても、土をいじ



本学キャンパスに隣接する「共創HUB京都（仮称）」の建設予定地で実施した龍谷大学との交流イベント「ちっちゃい焚き火」の様子。



週末にゆるやかに集うことのできる共有空間「ウィークエンドカフェ」をさまざまな場所で開催。写真は本学新キャンパスの着工前、更地となった場所で行われたもの。

り地域の方々と一緒に作業することは大きな意味を持っています。将来的には、まちなかにこのような共同の労働がたくさん溢れることを願っています。

教えながら学ぶ、学びながら教える

広報 京都芸大の移転は、地域の子どもたちにどのような影響を与えようとお考えでしょうか。

学長 地域の方によれば、崇仁地域は過去の歴史的経緯から、高校や大学への進学率において、依然として他の地域との格差が残っているという課題を抱えています。そのような中で、大学が来たことへの期待は非常に大きいと感じています。特に、学生に「子どもたちが成長したときのモデル」になってほしいと期待されているのです。

広報 モデルですか。

学長 はい。「こんな大学生がいる」「あんなこともできる」という、多様な生き方や価値観に触れる機会を子どもたちに与えてほしいということです。油画専攻の学生たちが授業で崇仁地域の風景を描き、その作品を展示するといった例もあります。地域の方々に作品をご覧いただく機会も多く、制作に時間をかけている様子を子どもからお年寄りまでが見ています。芸術大学は、典型的な「勉強」のイメージとは少し離れた学びの形を示せるという点で、大きな影響力を持っているはず。この地域にとって、本学の学生たちの存在は未来の可能性を示す希望となり得るでしょう。

（取材日：2025年12月）



小山田 徹【こやまだ・とおる】京都市立芸術大学 理事長・学長

1961年鹿児島県生まれ。1981年に京都市立芸術大学入学、日本画を学ぶ。在学中に友人たちとパフォーマンスグループdumb typeを立ち上げ、国内外での公演に数多く招かれる。活動の中で、メンバーのHIV感染とエイズ発症を機に、さまざまな社会活動と表現のありかたを試すことになり、1998年頃から、共有空間の獲得をテーマに活動を行う。焚き火場などさまざまな人々が集い、交流する空間や時間を開発し、社会実装を試みている。2010年から本学の彫刻の専任教員となる。2021年10月から美術学部長、2025年4月から現職。

UPCOMING EVENTS

これからご覧いただける本学主催イベント

EXHIBITIONS

展覧会

京都市立芸術大学 芸術資料館 令和7年度 展覧会 第4期

「卒業作品回顧展 -この学会で君たちは何を見つけたか-」

会期 | 2025年12月13日(土) - 2026年2月11日(水・祝)

会場 | 京都市立芸術大学 C棟1階 芸術資料館

京都市立芸術大学作品展 2025

会期 | 2026年2月7日(土) - 11日(水・祝)

会場 | 京都市立芸術大学



*写真は昨年度の様子



金氏徹平と the constructions 'tower (UNIVERSITY)'

会期 | 2025年12月13日(土) - 2026年2月15日(日)

会場 | 京都市立芸術大学 C棟1階 ギャラリー@KCUA

THE THOUSAND KYOTO x 京都市立芸術大学

陸 瑋妮 個展「窓の外、散らばった星々 (窓外面満地星星)」

Beyond the Window, Scattered Stars

会期 | 2026年1月10日(土) - 2月15日(日)

会場 | THE THOUSAND KYOTO 1階 アートギャラリー

アートスペースk.kaneshiro 第6回企画展

源平合戦図屏風 其二「与一、参上! 扇は空へと舞い上がる」

会期 | 2025年9月13日(土) - 2026年3月1日(日)

会場 | 京都市立芸術大学 C棟6階 アートスペースk.kaneshiro

OPEN LECTURES

公開講座

令和7年度後期 伝音セミナー -日本の希少音楽資源にふれる-

第3回「古琴を通じた伝承知の境界を探る

現代教育環境への接続に向けて」

日時 | 2026年2月12日(木) 14時45分 - 16時15分

会場 | 京都市立芸術大学 A棟1階 伝音セミナールーム

受講料 | 無料(定員50名・申込不要)

第4回「大津絵節を奏でる・つくる 幕末期寄席の再現への試み」

日時 | 2026年2月19日(木) 14時45分 - 16時15分

会場 | 京都市立芸術大学 A棟1階 伝音セミナールーム

受講料 | 無料(定員50名・申込不要)

第5回「『仁智要録』『三五要録』を聴く

平安末期の箏と琵琶の音世界II」*オンライン動画配信



配信期間 | 2026年3月22日(日) 20時 - 29日(日) 20時

視聴方法 | YouTube(伝音チャンネル)にて配信

視聴料 | 無料(事前申込等不要)

* 本学の芸術資料館、およびギャラリー@KCUAは入場無料です。また、月曜日および展示期間以外
は休館しています(月曜日が祝日の場合は翌平日休館)。

* 事前申込の方法やチケット販売など詳細情報については、各イベントのフライヤーや本学ウェブサイト
をご確認ください。

RESEARCH WORKSHOP & SYMPOSIUM

研究会・シンポジウム

芸術資源研究センター 第49回アーカイブ研究会

『moon'score』の誕生 -野村仁と美術・音楽の交差点-

日時 | 2026年2月14日(土) 13時 - 17時

会場 | 京都市立芸術大学 C棟6階 多目的ギャラリー

参加費 | 無料(定員50名程度・予約不要)

日本伝統音楽研究センター 細川周平所長 退任記念シンポジウム

細かさの偉大さ -近代芸能史研究家 倉田喜弘の仕事-



日時 | 2026年2月15日(日) 10時30分 - 17時

会場 | 京都市立芸術大学 A棟1階 伝音セミナールーム

聴講料 | 無料(先着30名 *WEB申込のみ・先着順)

CONCERTS

演奏会

作曲専攻生の新曲発表会

文化会館コンサート「Birth of Music」

日時 | 2026年2月5日(木) 18時開演

会場 | 京都市北文化会館

入場料 | 無料・申込不要

第179回 定期演奏会

大学院オペラ公演「愛の妙薬」



日時 | 2026年2月19日(木) 18時開演

会場 | 京都市立芸術大学 A棟3階 堀場信吉記念ホール

入場料 | 2,500円(全席指定)



*写真は昨年度の様子



今年度卒業する成績優秀者による演奏

第55回 卒業演奏会



日時 | 2026年3月20日(金・祝) 14時開演

会場 | 京都市立芸術大学 A棟3階 堀場信吉記念ホール

入場料 | 無料・要申込(全席自由) *2月17日(火) 10時から申込開始

京都市立芸術大学退任記念演奏会

北村敏則テノールリサイタル ~感謝を込めて~



日時 | 2026年4月19日(日) 14時開演

会場 | 京都市立芸術大学 A棟3階 堀場信吉記念ホール

入場料 | 無料(全席指定) *2月12日(木) 10時から申込開始

